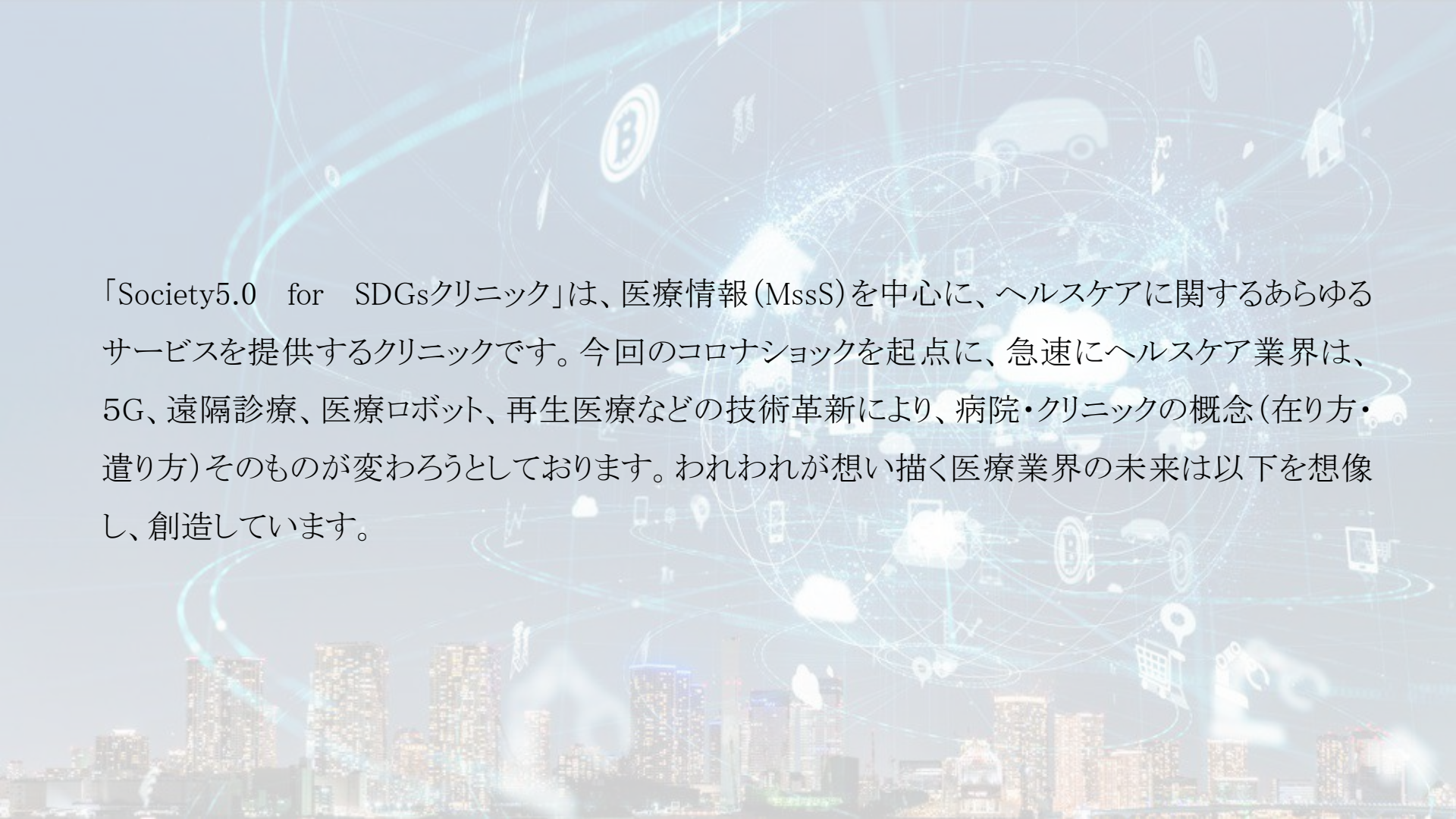
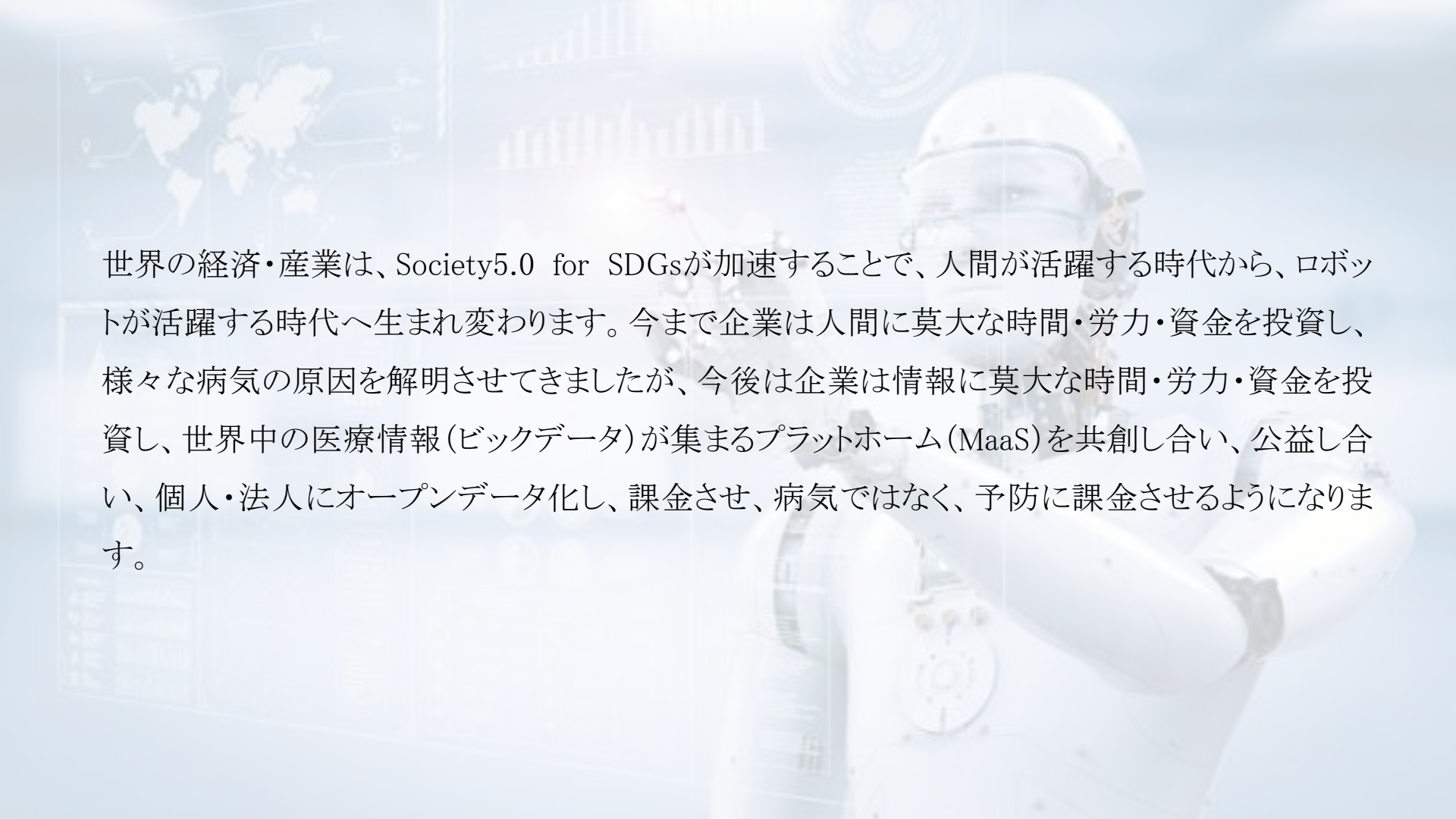




未来の「医・食・住」について



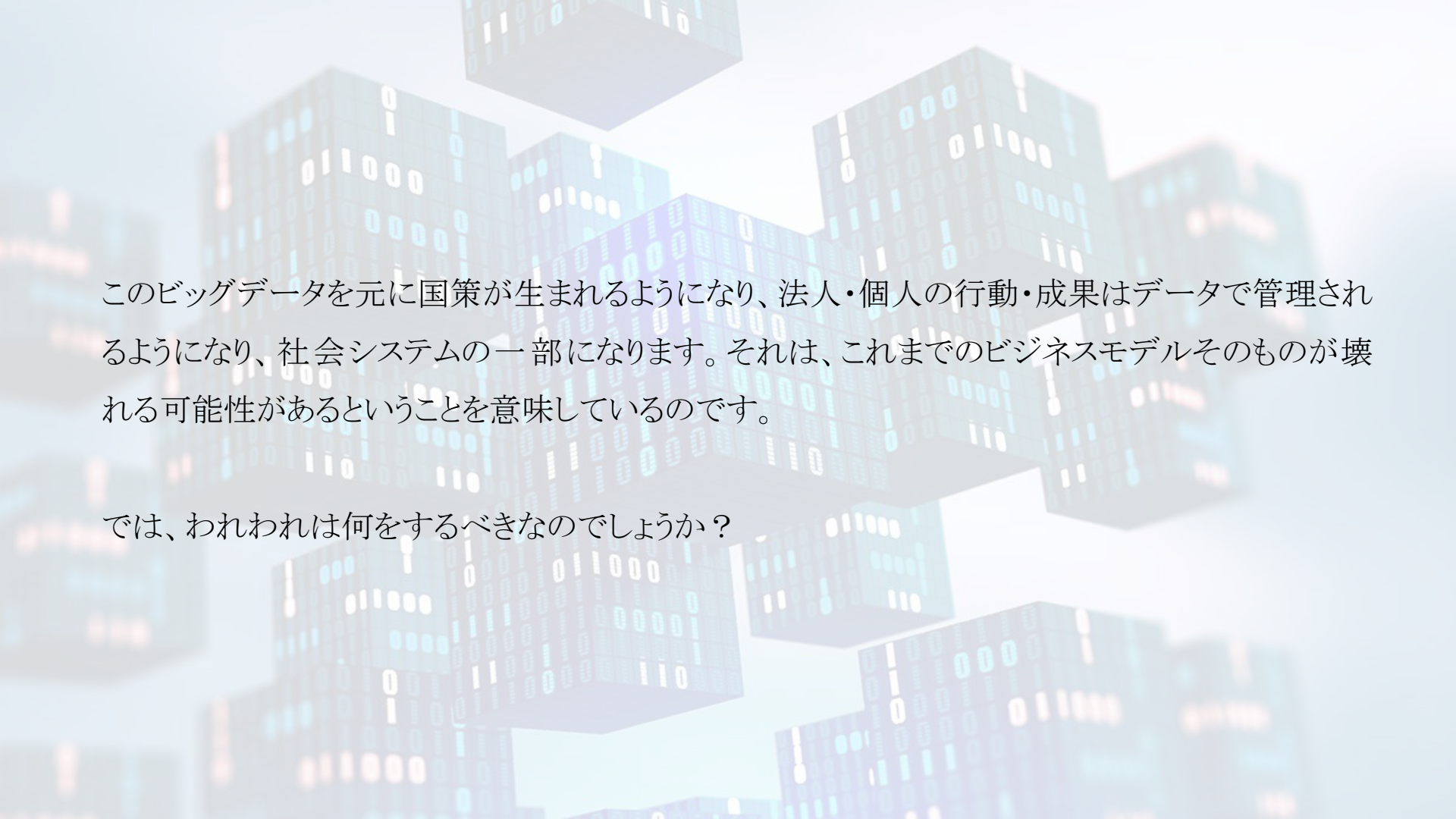
「Society5.0 for SDGsクリニック」は、医療情報(MssS)を中心に、ヘルスケアに関するあらゆるサービスを提供するクリニックです。今回のコロナショックを起点に、急速にヘルスケア業界は、5G、遠隔診療、医療ロボット、再生医療などの技術革新により、病院・クリニックの概念(在り方・遣り方)そのものが変わろうとしております。われわれが思い描く医療業界の未来は以下を想像し、創造しています。

A white humanoid robot is the central focus, standing in a futuristic, light-blue environment. The background features a world map on the left, a bar chart in the center, and various data screens and icons. The robot is wearing a white helmet and has its arms slightly raised. The overall scene is clean and high-tech.

世界の経済・産業は、Society5.0 for SDGsが加速することで、人間が活躍する時代から、ロボットが活躍する時代へ生まれ変わります。今まで企業は人間に莫大な時間・労力・資金を投資し、様々な病気の原因を解明させてきましたが、今後は企業は情報に莫大な時間・労力・資金を投資し、世界中の医療情報(ビックデータ)が集まるプラットフォーム(MaaS)を共創し合い、公益し合い、個人・法人にオープンデータ化し、課金させ、病気ではなく、予防に課金させるようになります。

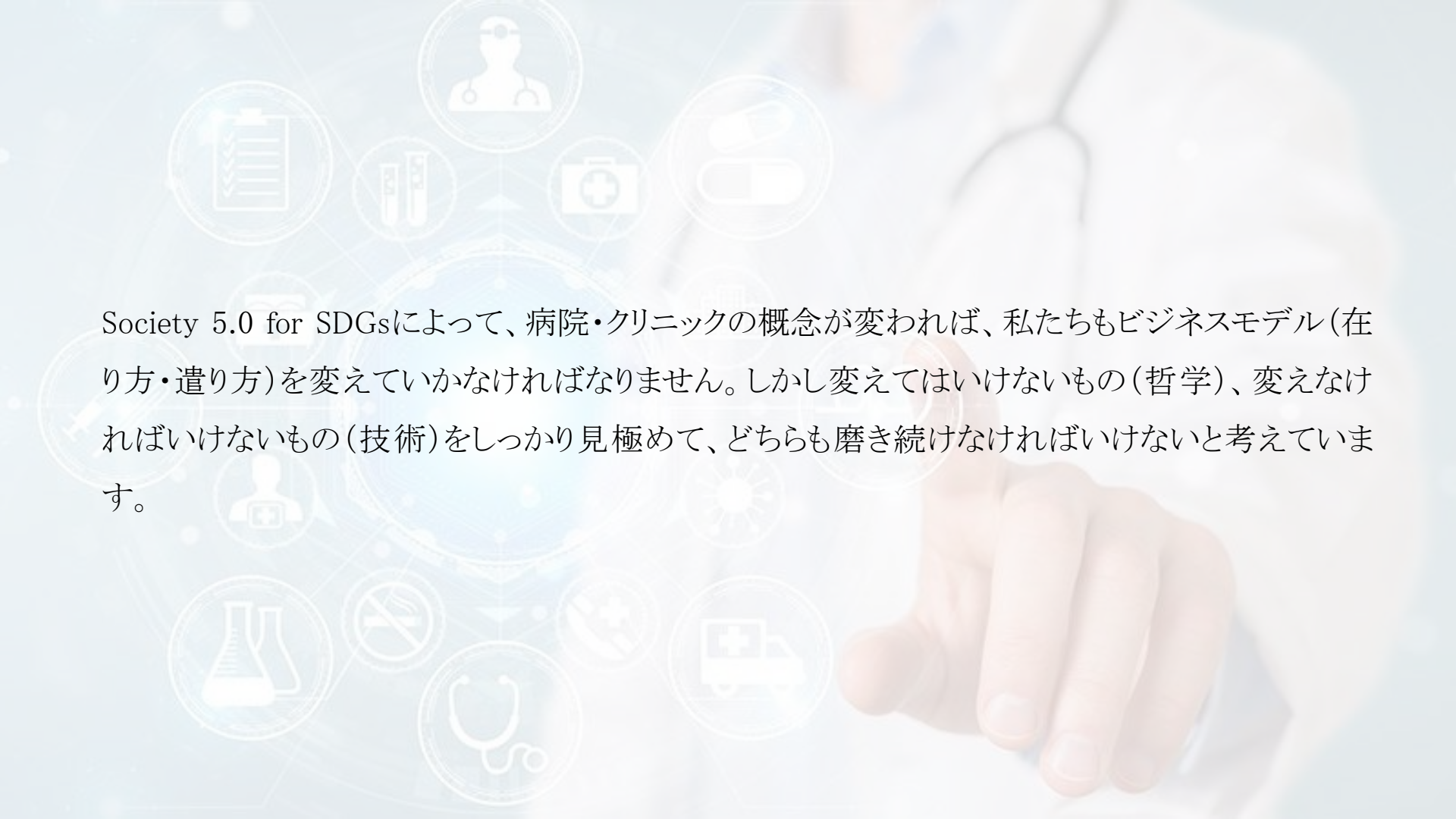


この情報とは、人間では思いつかない、あらゆる病の原因を解明させていくことになるでしょう。なぜなら、医療情報(MssS)には、あらゆる情報(XaaS)が組み合わさるからです。そして、その情報によって、人の身体だけでなく、街、日本、世界、地球の病の原因まで解決されるようになるからです。



このビッグデータを元に国策が生まれるようになり、法人・個人の行動・成果はデータで管理されるようになり、社会システムの一部になります。それは、これまでのビジネスモデルそのものが壊れる可能性があるということを意味しているのです。

では、われわれは何をするべきなのでしょう？

A hand in a white lab coat points towards a futuristic medical interface. The interface features a central circular display with a blue and white grid pattern. Surrounding this central display are numerous circular icons representing various medical and healthcare concepts, including a doctor, a clipboard, test tubes, a first aid kit, pills, a person with a heart, a sun, a laboratory flask, a stethoscope, and an ambulance. The background is a soft, out-of-focus image of a person in a white lab coat.

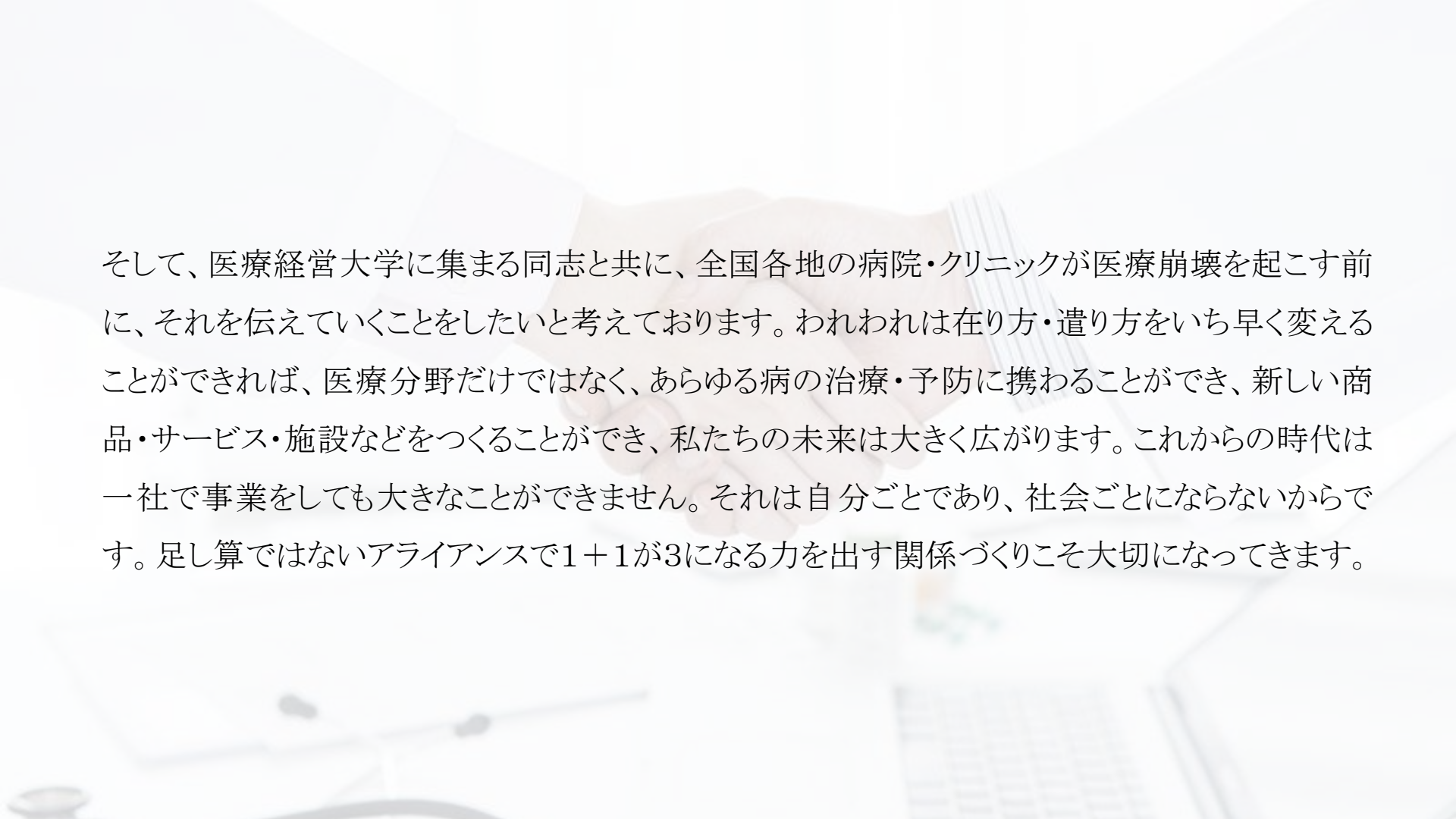
Society 5.0 for SDGsによって、病院・クリニックの概念が変われば、私たちもビジネスモデル(在り方・遣り方)を変えていかなければなりません。しかし変えてはいけないもの(哲学)、変えなければいけないもの(技術)をしっかりと見極めて、どちらも磨き続けなければいけないと考えています。

今早急に考え直さなければいけないのが、未来の顧客創造に向けた5つの質問です。

- 1) われわれの使命とは何か？
- 2) われわれの顧客とは何か？
- 3) 顧客にとっての価値とは何か？
- 4) われわれの成果とは何か？
- 5) われわれの計画とは何か？

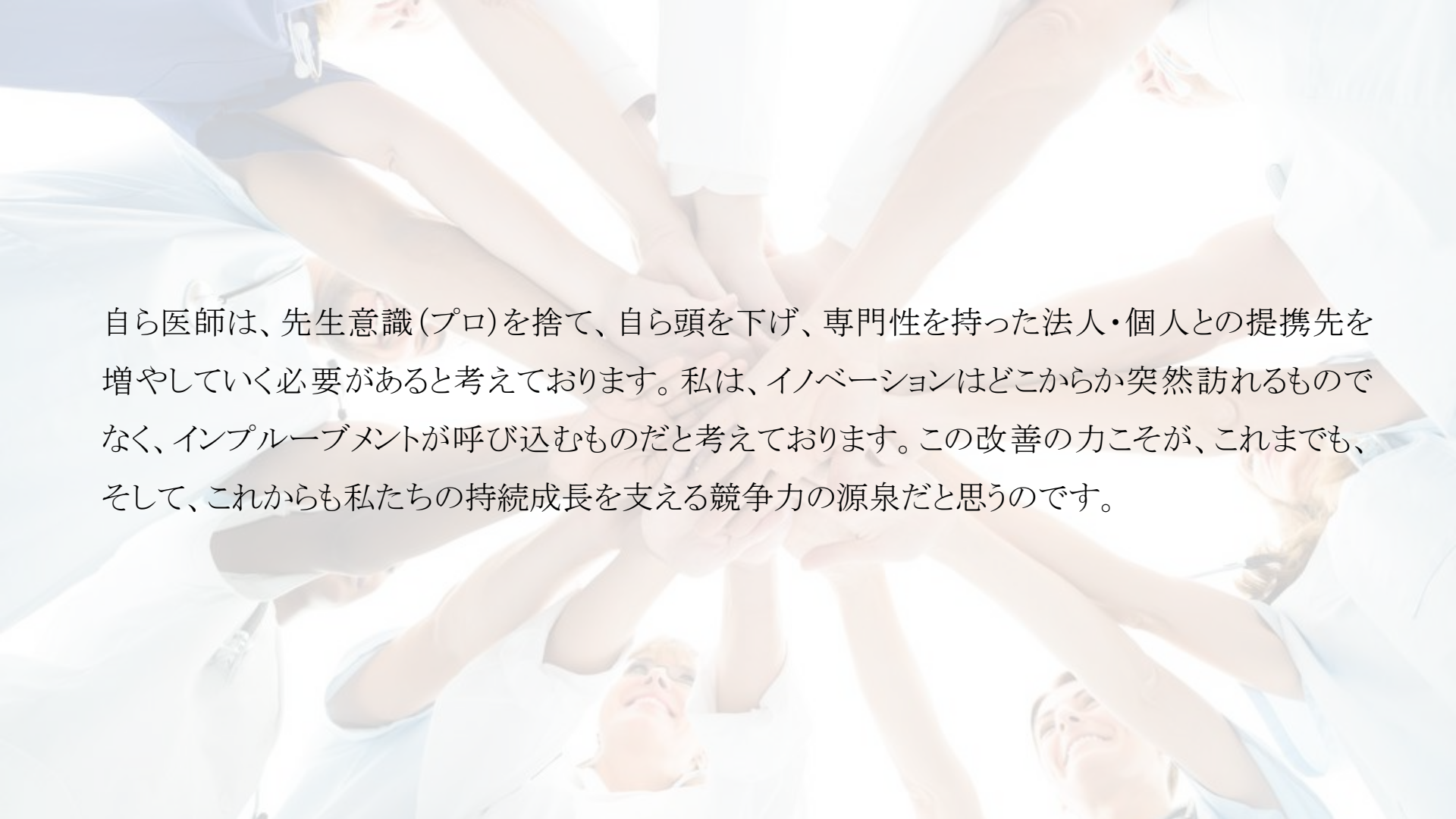
近い将来、必ず訪れる未来へ向けて、組織で考え直す必要があります。ここでいう組織とは、社内組織だけではなく、あらゆる専門家を巻き込んだ社外組織を再結成を示します。パートナー・グループ企業だからこそ実現できることがあると思っています。



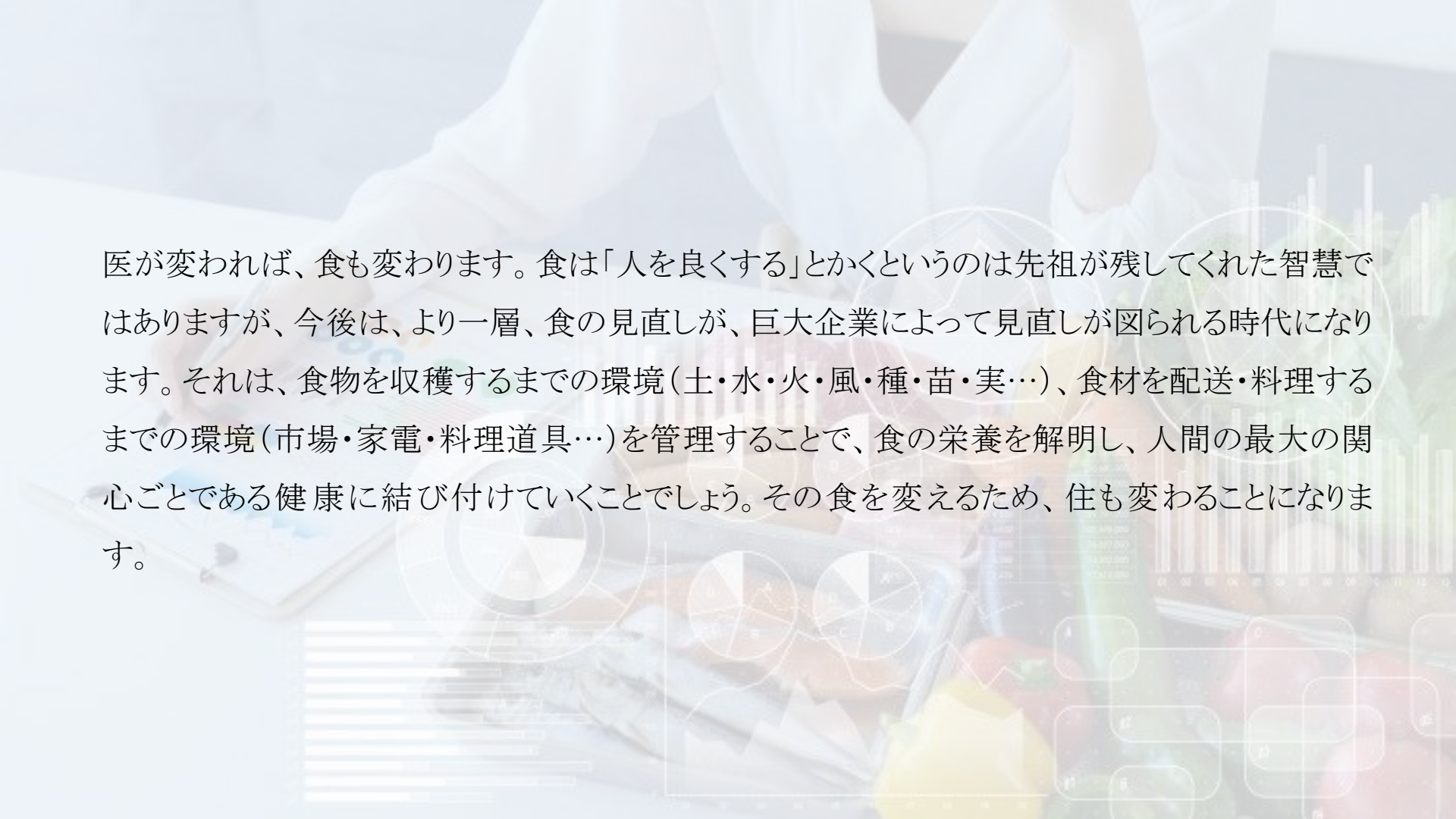


そして、医療経営大学に集まる同志と共に、全国各地の病院・クリニックが医療崩壊を起こす前に、それを伝えていくことをしたいと考えております。われわれは在り方・遣り方をいち早く変えることができれば、医療分野だけではなく、あらゆる病の治療・予防に携わることができ、新しい商品・サービス・施設などをつくることができ、私たちの未来は大きく広がります。これからの時代は一社で事業をしても大きなことができません。それは自分ごとであり、社会ごとにならないからです。足し算ではないアライアンスで1+1が3になる力を出す関係づくりこそ大切になってきます。

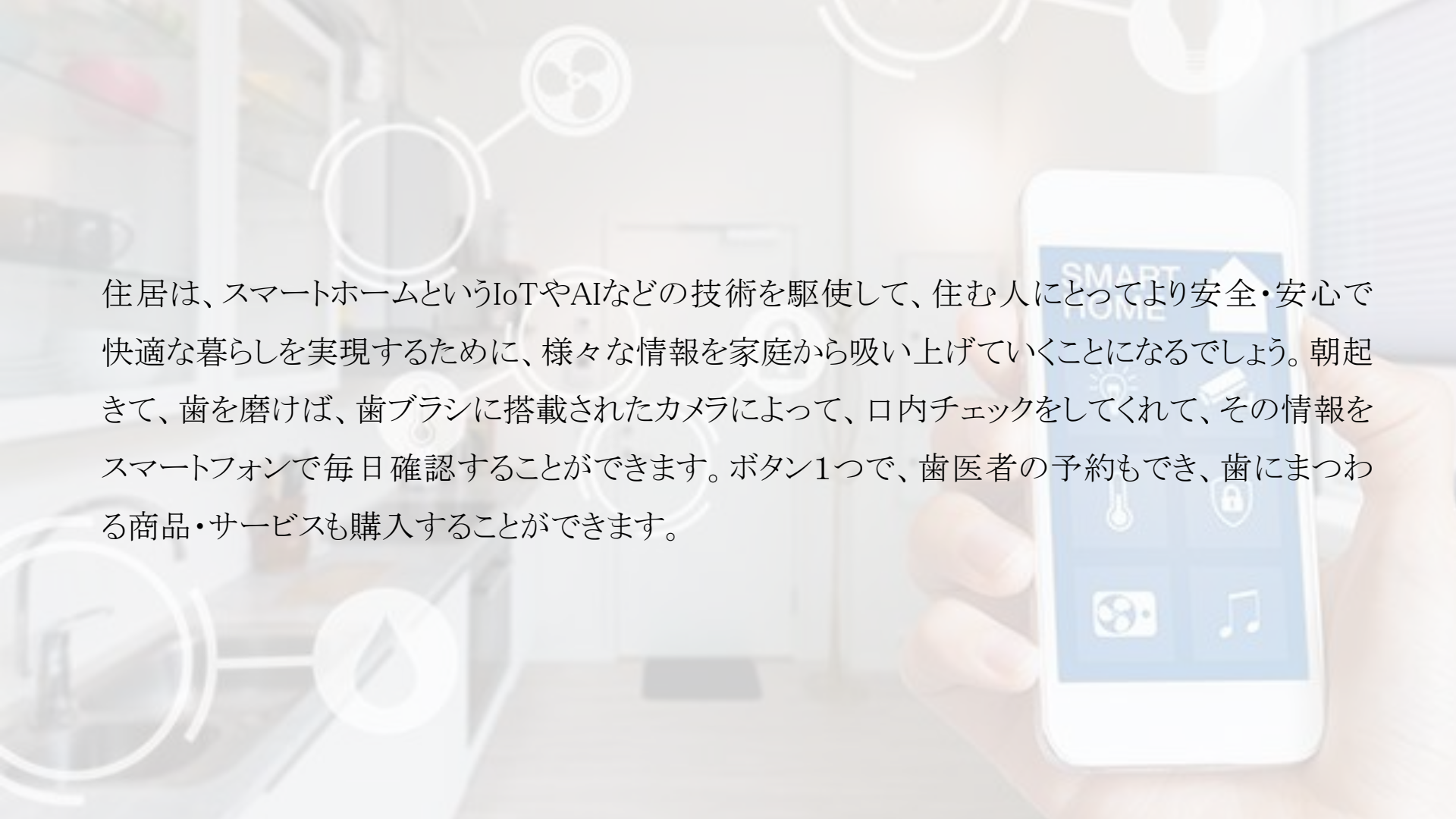




自ら医師は、先生意識(プロ)を捨て、自ら頭を下げ、専門性を持った法人・個人との提携先を増やしていく必要があると考えております。私は、イノベーションはどこからか突然訪れるものでなく、インクルーブメントが呼び込むものだと考えております。この改善の力こそが、これまでも、そして、これからも私たちの持続成長を支える競争力の源泉だと思うのです。

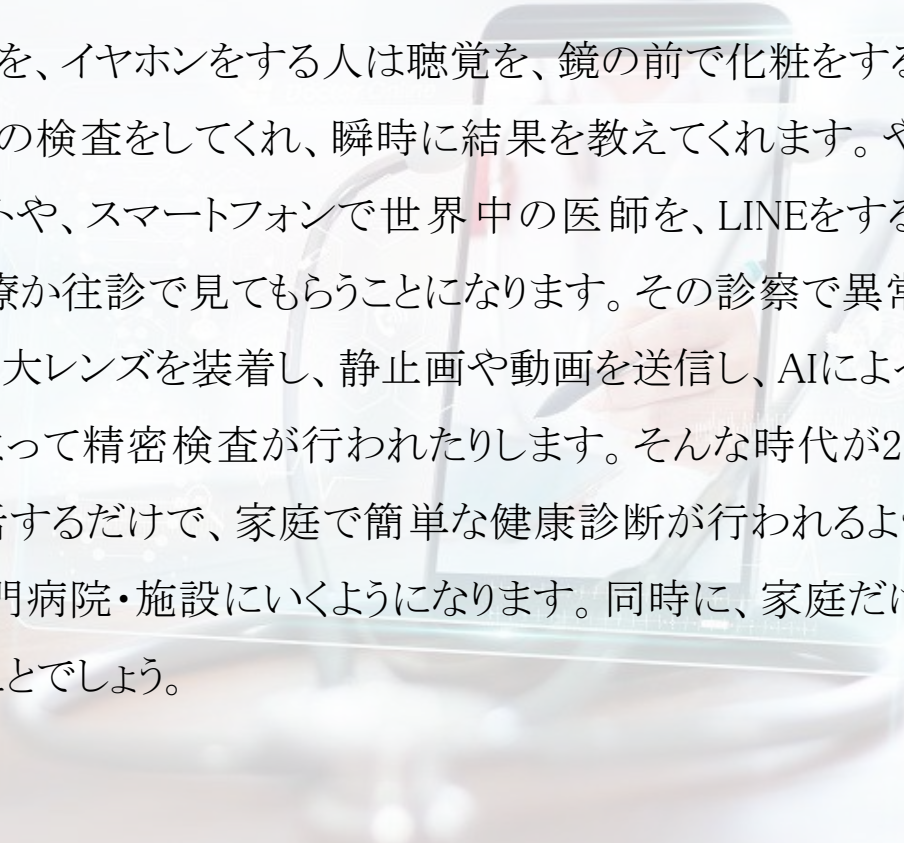


医が変われば、食も変わります。食は「人を良くする」とかくというのは先祖が残してくれた智慧ではありますが、今後は、より一層、食の見直しが、巨大企業によって見直しが図られる時代になります。それは、食物を収穫するまでの環境(土・水・火・風・種・苗・実…)、食材を配送・料理するまでの環境(市場・家電・料理道具…)を管理することで、食の栄養を解明し、人間の最大の関心事である健康に結び付けていくことでしょう。その食を変えるため、住も変わるようになります。



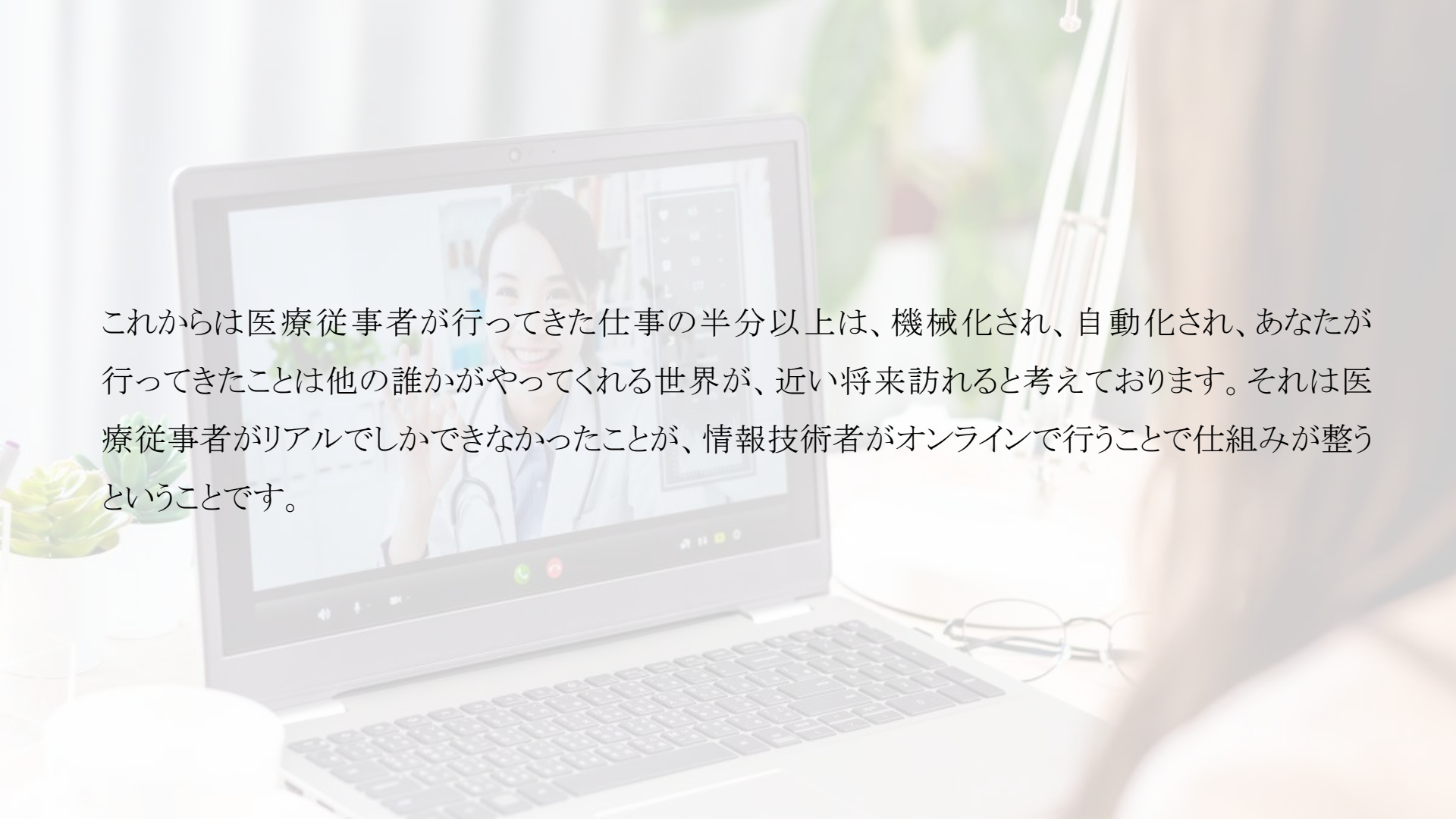
住居は、スマートホームというIoTやAIなどの技術を駆使して、住む人にとってより安全・安心で快適な暮らしを実現するために、様々な情報を家庭から吸い上げていくことになるでしょう。朝起きて、歯を磨けば、歯ブラシに搭載されたカメラによって、口内チェックをしてくれて、その情報をスマートフォンで毎日確認することができます。ボタン1つで、歯医者予約もでき、歯にまつわる商品・サービスも購入することができます。



A hand holding a smartphone with a medical app interface. The app shows a person's profile with a red heart icon, a pulse line, and a list of items. The background is a blurred image of a person's face and a hand holding a smartphone.

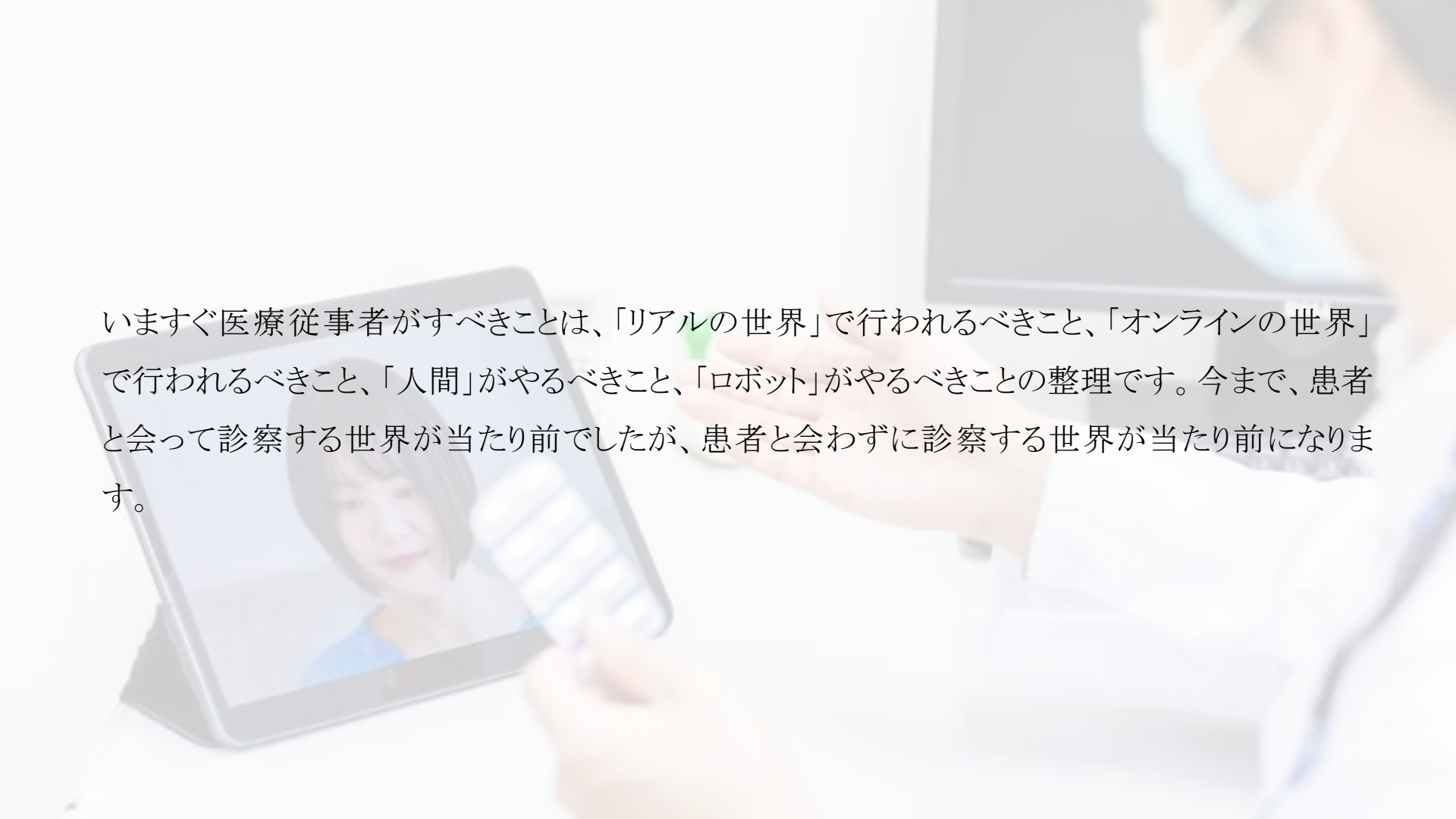
コンタクトレンズやメガネをする人は視覚を、イヤホンをする人は聴覚を、鏡の前で化粧をする人は肌年齢を、トイレを利用すると、尿・便の検査をしてくれ、瞬時に結果を教えてください。やや異常が見つかった人は、家庭内ロボットや、スマートフォンで世界中の医師を、LINEをする感覚、Uberを呼ぶ感覚で繋いで、遠隔診療か往診で見てもらうことになります。その診察で異常が見つければ、スマートフォンのカメラに拡大レンズを装着し、静止画や動画を送信し、AIによってリアルタイムで分析されたり、専門家によって精密検査が行われたりします。そんな時代が2025年には訪れると考えています。毎日生活するだけで、家庭で簡単な健康診断が行われるようになり、精密検査がしたい人は、近くの専門病院・施設に行くようになります。同時に、家庭だけではなく、会社の医療体制も変わってくることでしょう。



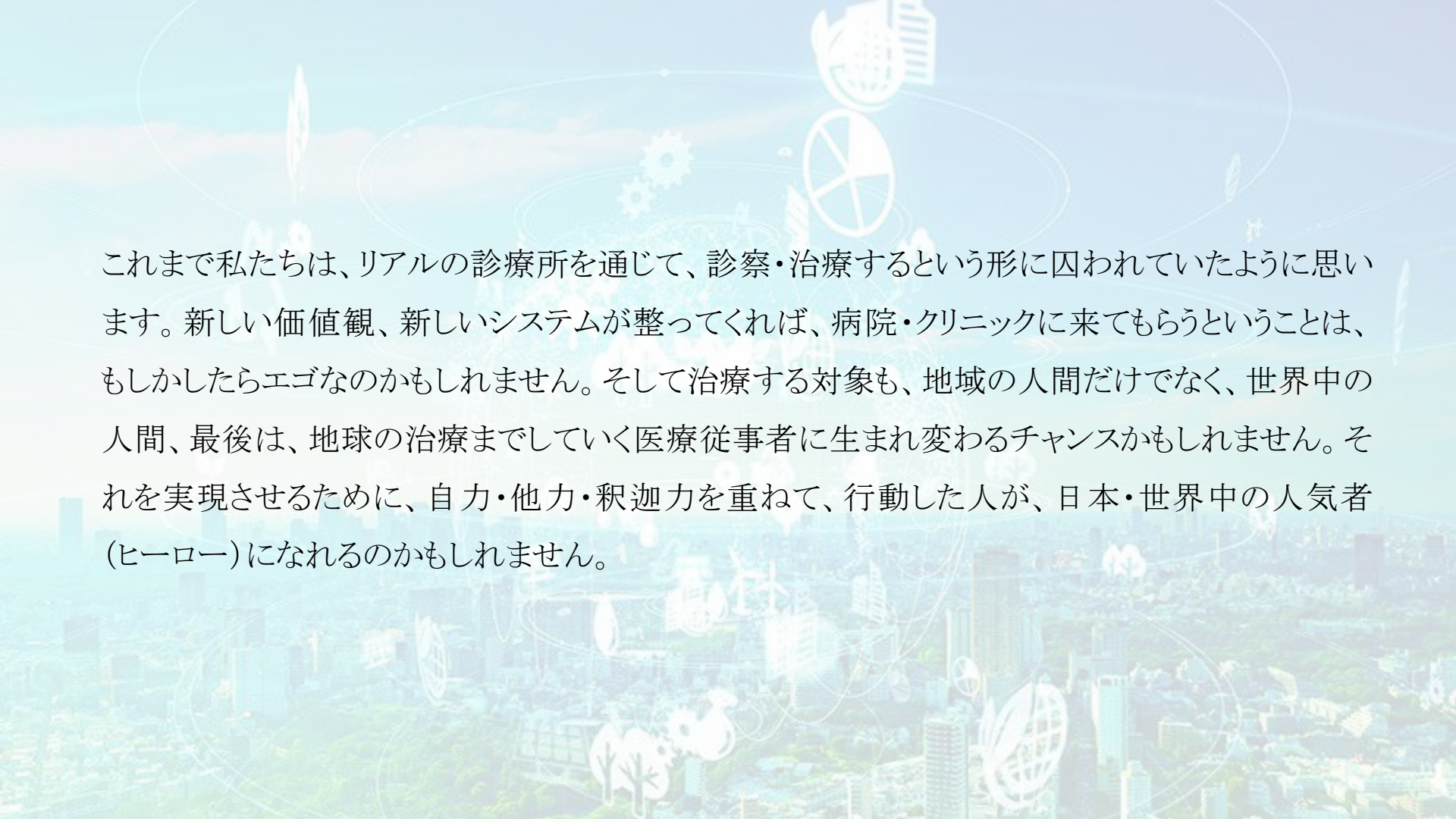


これからは医療従事者が行ってきた仕事の半分以上は、機械化され、自動化され、あなたが行ってきたことは他の誰かがやってくれる世界が、近い将来訪れると考えております。それは医療従事者がリアルでしかできなかったことが、情報技術者がオンラインで行うことで仕組みが整うということです。

世界中の人々が、治療・予防するごとに、EaaSのOS精度が高まりアップデートされ、それを解決するアプリが増えていきます。そのデータを消費者が見て、自己管理(栄養・睡眠・瞑想・健康・スポーツ…)していく人が増え、予防のための生活習慣が広がっていき、結果、病気になる人が減っていくことでしょう。病院・クリニックに行く人は、二極化することになります。1つは、情報技術に疎い人、自己管理ができない人が行く場所です。2つは、保険診療が効かない治療(美容・再生医療等)、精密検査を受けたい人がいく場所になってきます。これまでのビジネスモデルそのものが壊れる可能性を意味しているのです。


A doctor wearing a white lab coat and a blue surgical mask is using a tablet computer. The tablet screen shows a video call with a woman, representing a telemedicine consultation. The background is a blurred clinical setting.

いますぐ医療従事者がすべきことは、「リアルの世界」で行われるべきこと、「オンラインの世界」で行われるべきこと、「人間」がやるべきこと、「ロボット」がやるべきことの整理です。今まで、患者と会って診察する世界が当たり前でしたが、患者と会わずに診察する世界が当たり前になります。

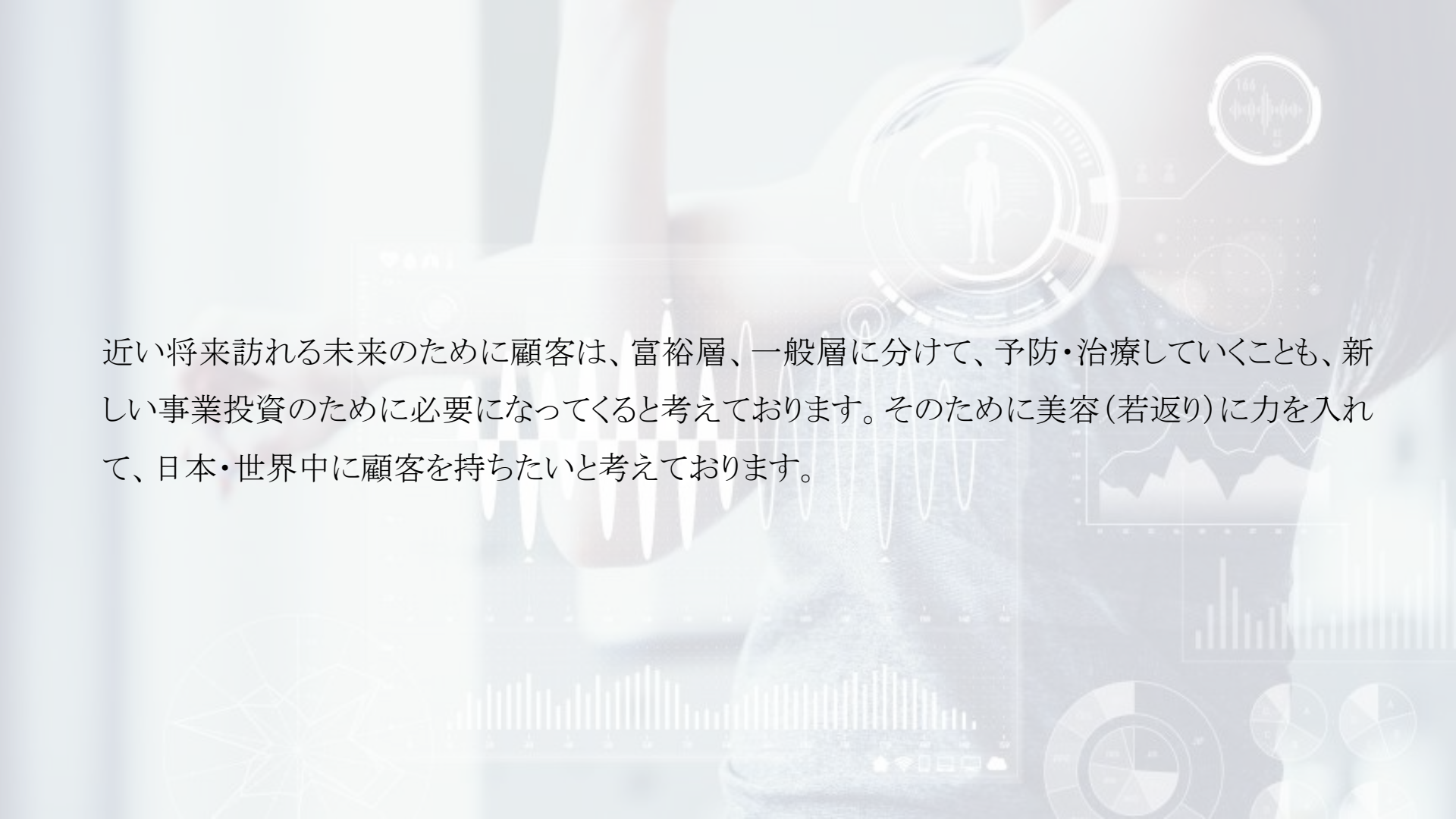


これまで私たちは、リアル診療所を通じて、診察・治療するという形に囚われていたように思います。新しい価値観、新しいシステムが整ってくれば、病院・クリニックに来てもらうということは、もしかしたらエゴなのかもしれません。そして治療する対象も、地域の間人だけでなく、世界中の間人、最後は、地球の治療までしていく医療従事者に生まれ変わるチャンスかもしれません。それを実現させるために、自力・他力・釈迦力を重ねて、行動した人が、日本・世界中の人気者(ヒーロー)になれるのかもしれません。

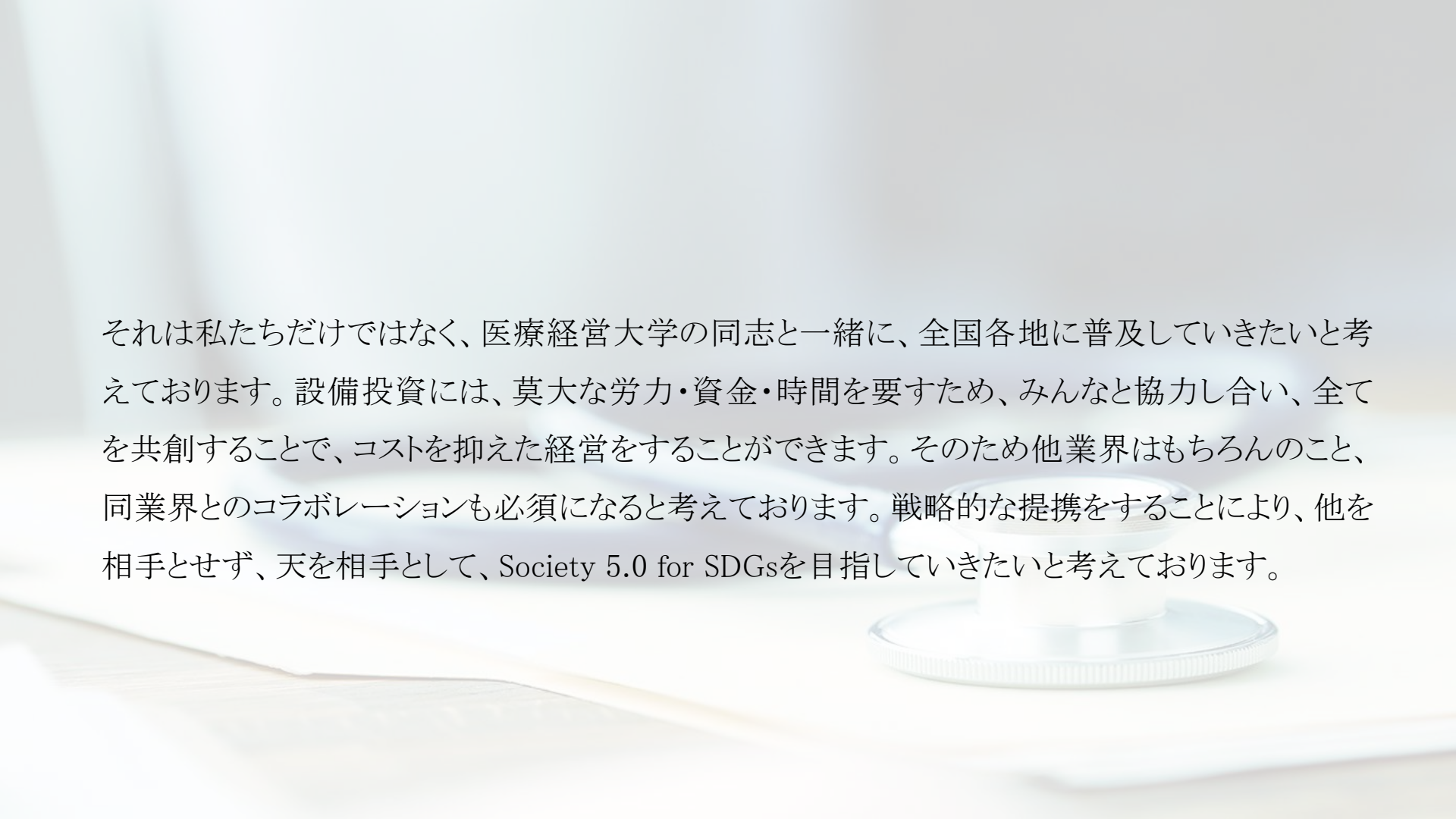




今まで苦手意識をもち、われわれが避けていたこと、特にデジタルシフト(デジタルマーケティング)について、詳しい人物を社内・社外組織に置いておくことは必要不可欠になります。特に医療業界において、MaaSにアクセスできる人、AI・Deep Learningなどを代表する技術革新を知り使いこなせる人です。これらは不治の病と呼ばれていた病気や、長寿の秘訣まで解明し、世界中の病気を無くす特効薬になる可能性を秘めております。そのためにはあらゆる投資が必要です。

A person's hand is shown holding a smartphone. The background is a soft-focus image of the hand and phone. Overlaid on the image are several semi-transparent white data visualization elements: a circular gauge with a human silhouette, a line graph, a bar chart, and various pie charts. The overall aesthetic is clean and futuristic, representing data analysis and technology.

近い将来訪れる未来のために顧客は、富裕層、一般層に分けて、予防・治療していくことも、新しい事業投資のために必要になると考えております。そのために美容(若返り)に力を入れて、日本・世界中に顧客を持ちたいと考えております。



それは私たちだけではなく、医療経営大学の同志と一緒に、全国各地に普及していきたいと考えております。設備投資には、莫大な労力・資金・時間を要するため、みんなと協力し合い、全てを共創することで、コストを抑えた経営をすることができます。そのため他業界はもちろんのこと、同業界とのコラボレーションも必須になると考えております。戦略的な提携をすることにより、他を相手とせず、天を相手として、Society 5.0 for SDGsを目指していきたいと考えております。